

1. 内政

・22日、共産党は、大統領府及び政府庁舎前において大統領及び内閣の退陣を要求する反政府集会を実施。

▼世論調査

[IMAS]

・次の日曜日に議会選挙が実施された場合の政党支持率
共産党:34.9%、自由民主党:13.9%、民主党:9.3%、自由党:6.2%、自由改革党1.8%等
・調査は10月19日から11月11日にかけて1,126名の成人を対象に実施。

2. 経済

▼マクロ経済

・19日、国家統計局は、2013年9月期の平均賃金が3,758モルドバ・レイ(約287ドル)と発表。

▼対EU支援

・19日、タピオラEUモルドバ代表部大使は、EUはモルドバに対して、これまで国民一人当たり41ユーロ相当の支援を実施した、2012年には1.2億ユーロの無償支援を提供した、モルドバ支援国の中でEUの支援額は一番大きい旨発言。

3. 外政

▼レアンカ首相のCIS首相会合出席

・20日、レアンカ首相は、サンクトペテルブルグで開催されたCIS首相会合に出席し、モルドバはCISの枠組みにおける人の移動の自由に関する問題の進展、貿易・経済関係の活性化、社会及び人文・文化分野における協力を賛同する旨表明。同首相は、貿易・経済協力、観光、保健、科学技術、財政及び社会・人文・文化分野における協力に関する文書に署名。会合後、レアンカ首相は、モルドバはEUとの連合協定仮署名後にロシアと貿易に関する協議を実施することで合意した旨発言。

・20日、レアンカ首相は、訪問先のサンクトペテルブルグにおいてメドヴェージェフ首相と会談し、モルドバ産ワインのロシアへの輸出再開問題、エネルギー分野における協力の見通し、モルドバからロシアへの出稼ぎ労働者の状況及び沿ドニエストル問題等に関し協議。

▼コルラツェアン・ルーマニア外相の来訪

・19日、ティモフティ大統領は、来訪したコルラツェアン・ルーマニア外相と会談し、両国友好関係の深化及びモルドバ

の欧州統合路線等に関し協議。

・19日、レアンカ首相は、コルラツェアン外相と会談し、モルドバのEU統合の見通し、両国関係発展及び両国間のガス・エネルギー網の相互接続計画等に関し協議。

・19日、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、コルラツェアン外相と会談し、両国協力関係及びモルドバの欧州統合路線等に関し協議。ゲルマン大臣は、モルドバの欧州路線に対する財政支援を含むルーマニアの支持に謝意を表明し、ウングニ・ヤシ間ガスパイプライン建設等の共同計画実現の重要性を強調。コルラツェアン外相は、ピリニウス首脳会合においてモルドバ・EU連合協定仮署名が行われると確信しており、また、モルドバはEU査証免除に関する必要な基準を満たしているとして、ルーマニアは来年秋までの同協定の署名及びモルドバ国民に対するEU査証免除化を支持する旨発言。

▼その他

・18日、自由民主党は、「モルドバの欧州統合に向けた国家の責任」宣言文書を発表し、同日、フィラト同党党首、レアンカ首相(同党第一副党首)及びゲルマン副首相兼外務・欧州統合相が同文書に署名。また、19日にスネグル、ルチンスキー両元大統領が、20日にルプ民主党党首及びハダルカ自由改革党党首が、21日にティモフティ大統領が同文書に署名。

・18日、コルマン議会議長は、ウクライナの決定とは関係なくモルドバは立場を変更することなく欧州統合路線を継続する旨発言。

・20日、シューベルEU代表部大使は、沿ドニエストルはモルドバの一部であるとして、EU・モルドバ自由貿易圏条約に沿ドニエストルのための特別な条項を加えることは不可能である旨発言。

・22日、レアンカ首相は、連合協定締結に向けた準備プロセスの中断に関する21日付ウクライナ閣僚会議決定を受け、ウクライナでの出来事によりモルドバの状況が多少複雑になったとして、欧州統合路線における疑いや迷いが生じないようモルドバは改革を加速化させる必要がある旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)